

「BALLAD バラッド 名もなき恋のうた」

☆☆☆

2009（平成21）年8月7日鑑賞＜東宝試写室＞

監督・脚本・VFX：山崎貴

原案：臼井儀人『映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶアッパレ！ 戦国大合戦』

井尻又兵衛（春日の国の武将）／草薙剛

廉姫（春日の国の姫、又兵衛の幼なじみ）／新垣結衣

川上真一（現代から戦国時代にやってきた少年）／武井証

川上暁（真一の父親、カメラマン）／筒井道隆

川上美佐子（真一の母親、キャリアウーマン）／夏川結衣

吉乃（廉姫の乳母）／香川京子

康綱（廉姫の父親）／中村敦夫

仁右衛門（又兵衛の家来）／吹越満

お里（仁右衛門の妻）／斎藤由貴

文四郎（仁右衛門の息子）／吉武伶朗

大倉井高虎（戦国大名）／大沢たかお

安長（高虎の側近）／小澤征悦

2009年・日本映画・132分

配給／東宝

＜『戦国自衛隊』に続いて、戦国時代へタイムスリップ！＞

『戦国自衛隊』（79年）は、演習中の自衛隊一個小隊が「時空連続体の歪み」によって400年前の戦国時代にタイムスリップするという面白い発想の物語だった。それと同じように本作は、小学生の川上真一（武井証）が戦国時代真っ最中の天正2年の春日という小さな国にタイムスリップする物語。

『戦国自衛隊』では自衛隊の近代兵器やヘリ、戦車などの近代装備が大きな威力を発揮したが、本作でも真一を心配してタイムスリップしてきた父親暁（筒井道隆）や母親美佐子（夏川結衣）が乗ってきたランドクルーザーがクライマックスにおいて大きな威力を発揮するから、それに注目。

＜意外に早い芸能界復帰の賛否は？＞

SMAPの一員である草薙くんが2009年4月に引き起こした公然わいせつ事件は世間の注目を集め、その逮捕・勾留について賛否両論が巻き起こった。しかし、意外に早く同年5月には芸能界復帰。これについては概ね好意的に受け止められ、強い反対意見がなかったが、それはなぜ？

約3カ月半にわたる本作の撮影は2008年12月の寒い時期を挟んで行われたらしいが、それはこの事件が起きる前だったから何の問題もなし。しかし、ひょっとして本作で草薙くんが演じた春日の国の侍大将、鬼の井尻こと井尻又兵衛と新垣結衣演ずる廉姫との恋が成就しなかったことが、草薙くんの大きなストレスとなって、あんな事件を引き起こしたのかも・・・？

＜お姫さま役では、新垣結衣の魅力はイマイチ？＞

ケータイ小説を原作とした『恋空』（07年）の大ヒットでブレイクしたのが、沖縄出身の美少女新垣結衣。彼女は『フレフレ少女』（08年）でも現代的な女の子役をイキイキと演じていたようだが、本作における廉姫は、当然着物姿のお姫さまだから、彼女の魅力はイマイチ？

今年の大河ドラマ『天地人』では常盤貴子がお船役を演じているが、8月4日に観た『20世紀少年-最終章-ぼくらの旗』（09年）における常盤貴子の方がずっと魅力的だったのと同じように、新垣結衣も『恋空』や『フレフレ少女』の方がずっと魅力的？

＜こんな動機で大国に逆らった殿さまに注目！＞

戦国時代の結婚は家同士のものだから、親が決めるのが当たり前。そしてまた、政略結婚が当たり前だったことは、①織田信長と濃姫との結婚、②織田信長の妹お市と浅井長政との結婚、③豊臣秀吉の妹朝日姫と徳川家康との結婚などをみても明らかで、当時の人たちはそのことに何の疑問も抱いていなかったはず。それはきっと、巨大な戦国大名である大倉井高虎（大沢たかお）から、一人娘廉姫との結婚を申し込まれた春日のお殿さま康綱（中村敦夫）も同じだったはずだ。ところが本作では、康綱が高虎の結婚申込を拒否したところから物語が大きく転換していくことに。

しかして、康綱はなぜ高虎の申し入れを拒否したの？それは、タイムスリップしてきた真一から、真一が生きる時代には春日という国はもちろん、高虎の名前や国さえも歴史に残されていないと聞かされたため。つまり、どうせ俺たちの家や国が後々の歴史に残らないのなら、いつ滅んでも同じではないかと開き直ったためだ。なるほどそれも道理だが、天正2年という戦国時代にそんな自由な発想をすることができた小国春日のお殿さまの頭の柔軟さに注目！

＜こんな決着のつけ方ってあり？＞

大ヒットした呉宇森（ジョン・ウー）監督の『レッドクリフ Part II』（09年）では、赤壁の空を真っ赤に焦がす水上戦の後に展開される陸上戦も迫力十分で見モノだった。曹操軍80万VS劉備・孫権連合軍5万という規模に比べれば、高虎軍5000人VS春日軍500人（ただし、これは女子供を含めた数字）という陸上戦がチャチなのは仕方ないが、城攻めの攻防戦が面白いのは古今東西、規模の大小を問わず同じはず。まずは、そんな攻防戦第1ラウンドを堪能したいが、私が納得いかないのは、その後本格的に展開されるはずの第2ラウンド以下の決戦がなく、何とも姑息な(?)決着のつけ方になっていること。

近代戦争は総力戦、消耗戦だが、戦国時代のそれは大将の首を取ればおしまいという意外に単純なもの？そんな説を裏付けるかのように、高虎はわずか数十騎で本陣めがけて突進してくる又兵衛軍を真正面から受け止めたうえ、1対1の大将決戦を選んだが、こりゃ戦国大名としては愚の骨頂。いくら武術に自信ありだとしても、鬼の井尻と恐れられている侍大将に一騎打ちを挑み、たとえ勝ったとしても全く意味がないのでは？つまり、高虎は戦国大名のお殿さまとして別の選択をすべきが当然なのだ。

そんな2人の対決という決着のつけ方の結果、春日の国に平和が戻ったのはラッキー。これによって又兵衛と廉姫が結婚し、無事ハッピーエンド・・・？

＜これも天命？あれも天命？＞

天下布武を目指した織田信長も、犬猿の仲だった薩長連合を成し遂げた坂本龍馬も疾走のごとき人生で、ある時期にある役割を成し遂げた後、天に召されるように死んでいったが、それはすべて天命？もしそうだとすると、人は死んでもその歴史上果たした役割は永久に残るものだ。これに対して、小泉純一郎総理が01年4月から06年9月まで5年半の間に成し遂げた郵政民営化を中心とする構造改革が徐々に否定されているのは残念だが、それも天命？このように、人の寿命や役割についてはどこかに天命があるのかも？

真一がタイムスリップしてきた天正2年の世界ではじめて見たのは、火縄銃で又兵衛を狙っている雑兵の姿。もちろん、真一はそれを阻止しようと考えて行動したわけではないが、真一のある行動によって雑兵が驚いたため火縄銃の狙いが逸れたから、又兵衛はラッキー。つまり、あの時あの場所に真一がタイムスリップしなければ、その後の高虎との戦いにおける又兵衛の獅子奮迅の働きもなかったわけだ。ところが高虎との対決に勝ち、真一らと共に意気揚々と引き上げていく又兵衛を襲った一発の銃声とは？ああやはり、これも天命？

＜『レッドクリフ』に続く、alanの主題歌に注目！＞

私は09年3月24日～27日の北京・上海旅行の際、陳小東の北京事務所である北京新超越广告有限公司で対談風景の写真撮影をしてもらったが、その同じビルにエイベックス中国が入っていた。そんな関係でエイベックス中国の副社長である馬驊さんとも名刺交換をしたが、近時のエイベックスの大ヒットは『レッドクリフ Part I』『レッドクリフ Part II』の配給をしたこと。『レッドクリフ Part I』『レッドクリフ Part II』の大ヒットで、エイベックスもウハウハだ。

ところで、あなたは『レッドクリフ Part I』『レッドクリフ Part II』で主題歌を歌っているalanを知ってる？私は『レッドクリフ Part II』の試写会のセレモニーでスクリーンに映るalanをはじめて見たが、1987年生まれの彼女はエイベックスの新人発掘オーディションで発掘された中国人の美人歌手。07年11月に歌手デビューして、いきなり『レッドクリフ Part I』『レッドクリフ Part II』の全世界主題歌を歌ったからビックリだが、何と本作はそのalanが日本映画初の主題歌を日本語で歌っている。

「BALLAD（バラッド）」とは「英語で物語的・叙事的な内容の伝統歌謡のことで、その内容には武勇伝・ロマンスなど様々なものがある」らしいが、そんな邦題にふさわしいゆったりとしたバラード曲がこれ。本作では、そんな主題歌にも注目！

2009（平成21）年8月8日記